

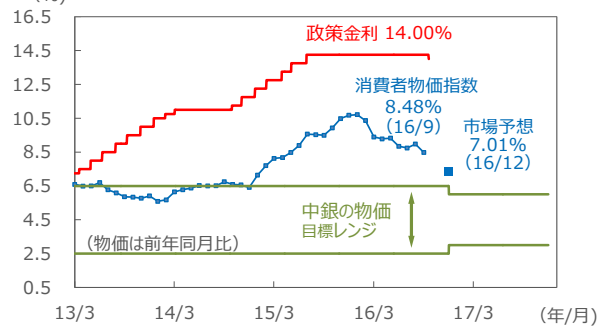
今日のトピック ブラジルの金融政策 (2016年10月)

0.25%の引き下げ：利下げサイクル開始示唆

ポイント1 0.25%の引き下げ 4年ぶりの利下げ

- ブラジル中央銀行 (以下、中銀) は、19日の通貨政策委員会で、政策金利を14.25%から14.00%に引き下げました。利下げは2012年10月以来4年ぶりですが、市場予想の通りでした。
- 中銀はインフレ率の鈍化を受けて、景気を下支えするための利下げの環境が整ったと判断したと見られます。

【消費者物価指数と政策金利】

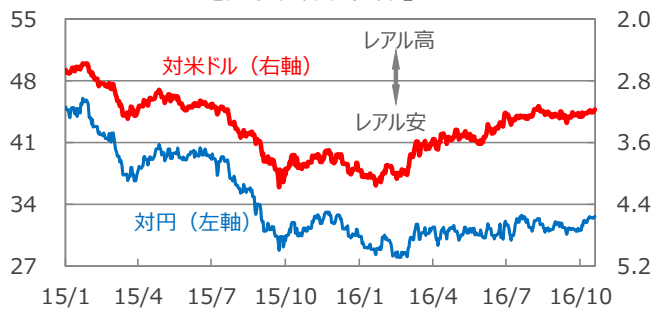


(注) 政策金利は2013年3月1日～2016年10月19日。消費者物価指数は2013年3月～2016年9月。市場の物価予想は、中銀発表の10月14日付け市場予想。中銀の物価目標は年+4.5%。レンジは2016年末まで±2%、2017年は±1.5%。
(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 利下げサイクル開始示唆 インフレ見通しは低下

- 16年9月の消費者物価指数は前年同月比+8.48%と、低下基調にあります。中銀は声明で、インフレ率の見通しを公表し、市場予想と同様に17年、18年の大幅な低下を見込んでいます。中銀は、緩やかな金融緩和の開始を示唆しました。
- 声明では、デysinフレが加速した場合や必要な経済調整 (財政改革) が進んだ場合、より大幅な利下げを行う可能性があるとして指摘しています。

【ブラジルレアル】 (円/レアル) (レアル/米ドル)



(注) データは2015年1月1日～2016年10月19日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 ブラジルレアルは堅調な推移

- レアルは、米国の利上げの先送りや資源価格の上昇に加え、テメル政権による財政再建への期待が追い風になり、対米ドル、対円で上昇基調にあります。また、株式市場も好調で、代表的なボエスパ指数がおよそ4年半ぶりの高値をつけ、年初来の上昇が4割を超えるなど、海外からの資金流入もうかがえます。
- 国際通貨基金 (IMF) が発表した最新の経済見通しで、「ブラジルは17年にマイナス成長から脱する」との予測が示されたように、経済成長の停滞観測が後退したことが投資家心理を好転させています。利下げにも支えられた景気底入れやテメル政権の財政改革への期待が今後もレアル相場を支えそうです。

ここもチェック! 2016年9月15日 最近の指標から見るブラジル経済 (2016年9月)
2016年9月1日 ブラジルの金融政策 (2016年8月)

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。